

教員養成課程における性教育のあり方に関する一考察 ～教員を志望する学生へのアンケートをもとに～

高橋舞帆（岩手大学）

I. 緒言

令和5年度から文部科学省は、「生命の安全教育」の取り組みを開始した。その背景には性犯罪や性暴力の増加がある。学校現場には以前から「性に関する指導」が存在しており、教育現場を対象に多くの研究がされてきた。そこで私は、「性に関する指導」や「生命の安全教育」を実践するための知識を得る場が必要であり、その一つが教員養成課程であると考えた。これらのことから本研究では、性教育を実践することを踏まえた教員養成課程における性教育のあり方について考察することを目的とする。

II. 方法

I 大学教育学部に所属する1年生から4年生の学生から、機縁法により108名を抽出し、Google フォームを用いた無記名式の調査を実施した。アンケートでは基礎項目、性教育に対する意識について、大学における性教育について、義務教育で教えた内容について、アンケートの感想の5項目21問を設定し、記入させた。データ集計にはExcelを使用し、クロス集計を行った。性教育に対する関心、自信については χ^2 検定を、満足度や教えた内容の評価にはt検定を用い有意性を検討した。

III. 結果及び考察

大学の授業で性教育を学んだ経験のある学生はわずか7名で、この結果から、「学ぶ機会が不足している」、「学んだことはあるが学んだと実感していない」という2つの課題が考えられる。そのため、大学にお

ける性教育では、「学びの機会の確保」と「学びの質の確保」が必要となると推察できる。また、大学で性教育について学ぶ機会が欲しいかという質問に対して「はい」と答えた89名に対し、その理由と学びたい内容を問うた。理由については、「自分の知識を確かなものにする」「教え方がわかること」を求めている回答が多くみられた。内容について、最も回答が多かったのは「教育現場における性教育の実践例について」で、次いで「ジェンダーについて」、「性犯罪について」となった。また、児童生徒に教えた内容について問うたところ、最も教えたいとされたのが「性に関する正しい情報の選択について」、次いで「避妊について」、「性感染症について」となった。

IV. 結論

本研究により、教員養成課程における性教育では、「学びの機会と質の確保」が課題として挙げられ、「自分の知識を確かなものにする」「教え方がわかること」が学生から求められていると明らかになった。また、大学の性教育で学ぶ内容として性教育の実践例や性に関する正しい情報の選択などの6つが挙げられた。

<参考文献>

- ・文部科学省、「生命の安全教育」、
https://www.mext.go.jp/a_menu/danjo/anden/index2.html (2025.01.11)
- ・文部科学省(2017)、中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 保健体育編